

1 研究主題

自ら問いをもち 伝え合い ともに高め合う子どもの育成
～主体的に学ぶ授業づくりを通して～

2 研究の具体

問いが持続し、主体的に学ぶ授業づくり

視点1

「必要感のある問いを持つ」ことができる工夫

- 対象との出会わせ方
(資料提示、体験・既習事項との比較等)
- 友達との情報交換、教師の発問

視点2

「伝え合いともに高め合う」ことができる工夫

- 内容の焦点化
- 情報の可視化 (板書、ワークシート)
- 学習形態 (ペア・グループ等)

視点3

「学習を価値付ける振り返り」の工夫

- 学習内容の振り返り
(知識・技能の定着、既習内容との関連性)
- 学びの過程に関する振り返り
(学びに対する自己の変容、課題解決に役立った方法、新たな問いへのつながり)

第1学年 算数科



いくつ多いかな？

Do you have~?

第4学年 外国語活動



研究構想図



3 研究の検証及び改善の手立て

「自分たちで問いを作っているか？」の設問に対して、肯定的意見の割合が17%上昇した。これは、必要感のある問いを持たせる工夫により、主体的に取り組む児童が増えてきていることが分かる。

また、「話し合い活動を通して、自分の考えを広げたり深めたりすることができていますか？」の設問に対する肯定的意見の割合は、11%増加した。伝え合い 高め合う場の設定の工夫で行った、話形の提示や、教具の工夫、思考の可視化や動作化、ゲーム性を取り入れる等の取り組みが大変有効であったと考える。

そして、振り返りの工夫により、自己の変容や学びの深まりを実感することで、達成感を感得できた児童が増えてきた。しかし、高まってきた意欲を持続していくためには、獲得した知識や技術を、どのように次の授業や生活の中で活用していくかという視点でのほたらきかけが、今後さらに必要である。

